

年 組 番
(名前)

<新聞記事から考えよう> 181025



佐賀県からユネスコ遺産

(上、下とも 佐賀新聞 2018.10.25 付)



川崎市行楽センターで、カセドリを披露する。佐賀新聞記者が撮影した。2017年撮影。

カセドリ (市) 佐賀 ユネスコ遺産

「来訪神 仮面・仮装の神々」勧告

文化庁は21日、国教育庁文化振興課（ユネスコ）の補助機関が、佐賀市蓮池町に伝わる「見島のカセドリ」や「男鹿のナマハゲ」（秋田）など、10件の伝統行事を構成する「来訪神 仮面・仮装の神々」を無形文化遺産に登録するよう勧告したと発表した。26日から12月1日まで、日本の千里シヤス開かれるユネスコ政府間委員会で、勧告通り登録が決まる見通し。佐賀県内から登録されるのは2016年の「唐津くんち」に続いて2年目。 28面に掲載記事

8県10件の行事で構成

来訪神は、正月夜に仮面・仮装した人々が、面をかぶり仮装して、登録申請していた。この補助機関が、佐賀市蓮池町に伝わる「見島のカセドリ」として「見島のカセドリ」は、先づ「カセドリ」を、佐賀市蓮池町の見島地区にされる。10件は、佐賀市蓮池町、現任はも国の無形文化遺産。2月の21日、3に指定されている。政府は、50年以上の伝承があるか、「地域の結びつきを世代を、神の使いであるか、超えた交流を深める役割、セドリ扮した若者の青年別集した。伝承を、2人が地区の集まりを回つて

来訪神 仮面・仮装の神々として無形文化遺産への登録を申請した行事
● 吉浜のスネカ (岩手県大船渡市)
● 米川の水かぶり (宮城県登米市)
● 男鹿のナマハゲ (秋田県男鹿市)
● 遊佐の小正月行事 (山形県遊佐町)
● 能登のアマメハギ (石川県能登町)
● 見島のカセドリ (佐賀市)
● 見島のトシドン (鹿児島県薩摩川内市)
● 薩摩硫黄島のメンドン (鹿児島県三島村)
● 石島のボゼ (鹿児島県十島村)
● 宮古島のバントウ (沖縄県宮古島市)

※行事名は文化庁の表記による

新年を祝する。カセドリ役の人々は、カセドリは、先づ「カセドリ」を、宮大工が継承する。1・8の昔竹を打ち鳴らし、悪霊をならす。「来訪神」の10件のうち、「カセドリ」は、2009年に追加で登録された。その後、追加で登録を申請した男鹿のナマハゲが「トシドン」に類似しているとの理由で見送られたのを受けて、政府は「トシドン」や「マハゲ」など複数の行事をまとめて一つの遺産とみなす手法に切り替えた。日本の無形文化遺産は現在、21件。来訪神は、日本の「カセドリ」は、登録されても総件数は増えない。

◎記事から読み取ろう

○佐賀県から登録される『カセドリ』は、どこの地区のどのような行事ですか。

(地区) _____

(行事内容…いつ行われるどんな内容)

(特徴)

(課題)

○「来訪神 仮面・仮装の神々」についてまとめよう。

・政府はどんな評価をしていますか。

・次に登録を申請しているのは何ですか。

広げよう・深めよう

○日本の無形文化遺産（現在 21 件）は、他にどんなものがあるか調べてみよう。

◎自分の考えをまとめよう

* 友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○身近な地域の伝統行事について調べよう。



ユネスコ無形文化遺産への登録が確定し、マコトが記者会見で取材や市民からの電話対応に備える。見島カセドリ保存会。佐賀新聞記者が撮影した。

「神さんごと」守り続ける ユネスコ遺産へ 350年の伝統評価

「来訪神 仮面・仮装の神々」の一つとして、ユネスコの無形文化遺産への登録が確定した見島のカセドリ。350年にわたって、佐賀市蓮池町の見島地区にある舞野権現社の氏子たちが静かに守り続けてきた。その伝統が世界的に認められ、国際機関に保存会会長の武藤隆信さん(66)は「世界的な評価を受け、広く知ってもらえるのはいいこと」と顔をほころばせた。 1面参照

現在の見島地区は21世帯の資格がある人は3人、約70人の小さな集落で、未だ、舞や笠の作り手もいなくなった。結婚の男性が担うカセドリ役も、次の世代へつづいていくことが難しくなってきた。 1面参照

承っていくかという課題に直面している。武藤さんは「この行事は、いわゆるお祭りとは違う。あまでも神社の氏子たちが守ってきた『神さんごと』(神事)」。いつまで続けられるかは分からないが、そう見守ってほしいと話す。 1面参照

は予定していない。文化振興課の担当者は「普通の祭りとは趣が異なる。観光客に見てもらおうというより、伝承へのモチベーションを高める必要がある」と見守る。 1面参照

○身近な地域の伝統行事について調べよう。